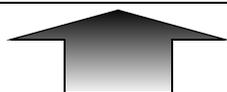


【学校教育目標】

チーム城西 とともに光りかがやく
 ～ もあハッピー大作戦 第3章 「みんなの幸せがずっと続くために」～
 令和5年度のキーワードは「ハッピー」

【未来大館市民こども像～未来を紡ぎ上げる力】

- 1 ふるさと城西を愛し、地域のためにできることを考え、実践する子ども (FC)
- 2 健康を意識し、体力づくりをする子ども (体)
- 3 自他のよさが分かり、思いやりを態度に表す子ども (徳)
- 4 自分の考えを表現し、共感・協働しながらすすんで学び合う子ども (知)



重 点		実 践 課 題
人間的基礎力・大館市民実践力の育成	A 特色ある学校運営 ～コミュニティ・スクール	<input type="checkbox"/> 特色ある教育課程の編成 (キャリア発達の支援) <input type="checkbox"/> 組織の機能化と予算の効率的な執行 <hr/> <input type="checkbox"/> 保護者・地域との連携強化と情報の受発信
	B 学ぶ力の育成	<input type="checkbox"/> 学習習慣の確立と基礎・基本の定着 <hr/> <input type="checkbox"/> 授業力の向上と校内研修の充実
	C やさしい心と 安全・安心づくり	<input type="checkbox"/> 主体的な特別活動・児童会活動 <hr/> <input type="checkbox"/> 諸問題への迅速かつ適切な対応
	D 健康と体力の向上	<input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣・食習慣の定着 <input type="checkbox"/> 自立に向けた生活習慣の確立 <hr/> <input type="checkbox"/> 体力づくり
	E ふるさとキャリア教育	<input type="checkbox"/> SC活動 <input type="checkbox"/> 弥栄プロジェクト



3年研究授業「共感的・協働的学び」



地域委員会による夏休み学習会



外部講師によるクラブ活動

IV 評価

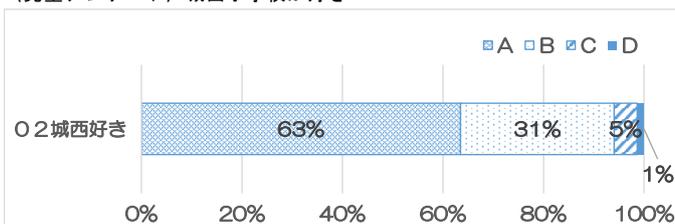
重点A 特色ある学校運営～コミュニティ・スクール

1 組織・運営				
児童生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
地域と連携しながら、特色ある学校づくりを計画的・組織的に推進している。	前期	良好	良好	児童と先生の触れ合いの時間を確保するために、教育課程に関する見直しをしたことが、効果的に学校運営に生かされている。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】今年度は、児童の意欲や自主性を引き出しつつ、教師が児童一人一人に向き合い、学習・生活両面の指導を充実させることを目的に、週の時程表や通知表の見直しを行った。教師が授業改善や研修に取り組む時間を保障するために、昨年度まで火曜日のみだったB日課を木曜日にも実施している。夏休み中の二者面談との重複を避け、児童のよさをより具体的に伝えるために“学校から”の欄を2・3学期のみの記述とした。クラブも地域の方の得意分野や専門性を生かして、より楽しく充実した活動ができるように、外部講師を積極的に活用している。また、本校には特別支援学級が3クラスあり、複数の学年と交流学習を行っていることから、インクルーシブ教育を円滑に進めるために、時間割の編成にも配慮している。</p> <p>ふるさとを愛する心と地域のための活動に取り組もうとする実践力を育てるために、地域委員会主催の活動も、5・6年生を中心とした児童が発信する活動も、大きな柱となっている。</p> <p>後期は、学校の諸活動を再度見直し、児童の主体性や協働性、創造性等を高め、自立のために必要な基盤を培うとともに、教師の指導力アップと働き方改革を進めていきたい。そして、コミュニティ・スクールのよさを生かして、地域と連携・協働し、地域とともにある学校づくり、地域を元気にし、地域の核となる学校づくりに努めていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 地域に信頼される地域の核となる学校	(1) 特色ある教育課程の編成（キャリア発達の支援）	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人と向き合い、指導の充実を図るための教育課程の編成 生活科及び総合的な学習の時間を中心とした大館ふるさととキャリア教育の推進とSC活動の推進 地域委員会との連携 	4	
	(2) 組織の機能化と予算の効果的な執行	<ul style="list-style-type: none"> 指導部・プロジェクトの組織編成と、学校教育目標を実現するための計画的・組織的な取組 指導部・プロジェクトの取組が円滑に行われるための予算の効果的な執行 	4	

[1-(1)に関するデータ]

〈児童アンケート〉城西小学校が好き



(3) 地域委員会との連携

- ① わくわく給食交流会
- ② 給食試食（25名参加）
- ③ ふれあい緑の活動（22名協力）
- ④ 安全レーンペンキ塗り（35名協力）
- ⑤ 夏休み学習会への協力（高校生57名、地域の方8名）



安全レーンペンキ塗り

将棋クラブ



◎取組の実際

(1) 教育課程の編成

- ① 週2回のB日課実施
- ② インクルーシブ教育拡充のための時間割編成
- ③ 二者面談の充実のための通知表の改善
- ④ クラブへの外部講師招聘（7つのクラブで講師を依頼）

(2) 大館ふるさととキャリア教育の推進

- ① 地域を元気にするSC活動の推進（全校の取組）
 - ・ ふれあい緑の活動（5名協力）
 - ・ 町内連絡会ごとのクリーンアップ等
- ② 児童の発想や願いを生かした特別活動の取組
 - ・ 弥栄集会（大館ばやし保存会10名参加）

2 保護者・地域との連携				
学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
取組を分かりやすく保護者や地域に伝え、地域の教育力を有効に活用している。	前期	良好	良好	情報の発信が、地域及び保護者に対して効果的になされている。今後も継続していただきたい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】学校報「城西YES！！2023」を毎週末に発行し、子どもたちの学びの姿や行事の様子、地域との関わりなどを、家庭や地域に詳しく伝えている。加えて、学校のホームページを随時更新、学校報や地域報を幅広く発信していることもあり、保護者アンケートで高い評価を受けている。</p> <p>毎週木曜日には、オレンジ隊（ガードボランティア隊）の方々と情報交換会を実施し、そこで得た情報を見守りの安全な登下校や地域での過ごし方の指導に生かしている。情報交換会後はオレンジ隊の方々が1年生の下校の見守りを含めた下校指導をしてくださっており、1年生の保護者からは、「見守ってくださっているのが安心」という声が届けられている。コロナウイルス感染症の影響で活動の縮小が余儀なくされていたPTA活動は、今年度からコロナ前の活動に戻つつある。「一人一役」の全員参加による活気のある活動が、図書整備作業、ベルマーク回収、登校指導などさまざまな場面で展開されている。地域ボランティアの方々による協力体制も充実しており、新体カテストの測定補助や本の読み聞かせ、家庭科の実習や鳳凰山登山への支援などは、職員の負担軽減としても高い成果を挙げている。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
2 地域との協働と情報の受発信	(3) 保護者・地域との連携強化と情報の受発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校報「城西YES！！2023」配布とHPへの掲載 地域報「コムニタ」の発行 ・ブログで子どもたちの活動の様子を発信 ・オレンジ隊（ガードボランティア隊）との情報交換 ・PTA活動（一人一役を含む）への参加 ・地域学校共同活動による支援の有効活用 	4	

〔2に関するデータ〕

◎取組の実際

(1) お便り等による情報提供について

- ・ブログ・HPによる情報発信 随時配信
- ・学校報「城西YES！！2023」 週1回発行
- ・地域報「コムニタ」 月1回発行
- ・学年便り・保健だより・城西っ子のくらし
- ・連絡メールの活用（安全に関する連絡・情報提供等）

〈保護者アンケート〉「学校は情報を発信している」

(2) オレンジ隊との情報交換・下校の見守り

- ・4月27日（木）オレンジ隊発足式、給食交流会
- ・学校側と情報交換会（毎週木曜日）
- ・1年生の安全な下校の見守り（情報交換後）

1年生とオレンジ隊の交流会 オレンジ隊との集団下校

(3) PTA活動

- ・PTA総会 ・PTA運営委員会
- ・各専門部、学年部の活動、親子ふれあい学習
- ・PTA一人一役の協力
- フェスティバル運営協力 ○プール監視協力
- 図書整理 ○ベルマーク整理 ○登校指導

活動計画を立てる協議 図書整理作業

(4) 地域学校支援活動による支援の有効活用

本の読み聞かせ 鳳凰山登山支援

家庭科実習支援 新体カテスト測定補助

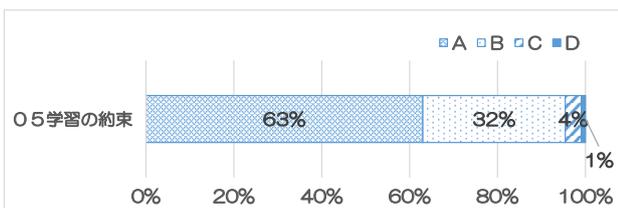
重点B 学ぶ力の向上

3 自ら考え学び合う力と基礎学力の育成

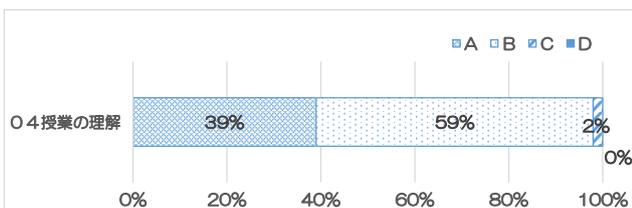
児童生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
意欲的に授業に臨み、学習習慣を確立し、確かな学力を身に付けさせている。	前期	概ね良好	概ね良好	現在の取組を継続し、さらに成果を上げていただきたい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期(→年度)】今年度の重点である「基礎基本の定着」の中でも、学びに向かう姿勢の定着に向けて取り組んだ。城西学習スタンダードの見直しと学び方集会を実施し、児童、職員全員に対して学習の約束を守る意味や大切さについて意識付けを行っている。また、家庭学習の充実を図るために、各学年の代表児童が家庭学習で頑張っていることと実際のノートを紹介することで、友達を真似て家庭学習に励む児童の姿も見られた。今後も、子どもの実態を把握しながら、基礎基本を定着させる取組を丁寧に取り組んでいきたい。</p> <p>今年度は、「主体的・協働的な学び合う授業」を目指して研究を進めている。学団と全体での2段階の指導案検討会、研究授業後の反省をすぐにフィードバックするなど、よりよい授業づくりに力を入れている。本気ツズタイムを充実させるため、学びの過程で「数学的な見方・考え方」を働かせることができるような発問や活動を設定したり、見通しのもとせ方を工夫したりして試行錯誤しながら取り組んでいる。本気ツズタイムⅡの実践を集め、共有することで、職員全体にⅡの在り方が浸透してきている。今後も、基礎・基本の力の育成と合わせて、授業改善や学力向上に取り組んでいきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 目標をもち、ねばり強く学習に取り組む子	(4) 学習習慣の確立と基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> 学習スタンダードの徹底(「学習の約束」の掲示、強調週間) 家庭学習の習慣化(ノートを見るday、ノート展示、マイスターの表彰、強調週間、家庭読書) 基礎基本の定着(城西検定、週末プリント、学習会、音読) 学習環境の整備(学び・道徳の各コーナー・学年花壇) 視聴覚・メディア、学校図書館の利用、読書の推進 	3	
4 学力向上を図る	(5) 授業力の向上と校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりのための研究会(「数学的な見方・考え方」を働かせたり、本気ツズタイムを充実させたりする授業づくり) 一人一研究授業の実施 ワークショップ型授業研究会の充実 学団研究の充実 	3	

〔3-(4)に関するデータ〕
〈児童アンケート〉学習の約束を守っています。



〔4-(5)に関するデータ〕
〈保護者アンケート〉子どもたちは授業をよく理解できている。



◎取組の実際

- 学習習慣の確立と基礎・基本の定着
 - 学習の約束強調週間(4月・8月)
 - 学び方集会(8月・9月)
 - ノートを見る day パートⅠ 校長先生が見る(5月:5年、6月:3年)
 - ノートを見る day パートⅡ 学年の先生が見る(5月)
 - 家庭学習ノート展とノートマイスターの表彰(7月)
 - 城西検定(朝学習(国語・算数、月1回))
 - 音読・タブレットの計算練習(朝学習)
 - 週末プリント学習(4月から継続)
 - 家庭読書の日(月1回)
 - 学習環境の整備(花壇整備5月～)
 - 夏休み学習会
- 授業力の向上
 - 授業づくりのための研究会の充実(学団での指導案検討会、模擬授業での検討会、事後研究というPDCAサイクル)
 - 基礎・基本の力の育成
 - 本気ツズタイムの充実
 - 一人一研究授業
- 校内研修の充実
 - ワークショップ型授業研究会の実施
 - 学団研究計画の作成及び実施
 - 全校研修会(ICT)、ミニ研修会(教科、生徒指導など)の実施
 - 校外研修への積極的な参加と情報の共有化

重点C やさしい心と安全・安心づくり

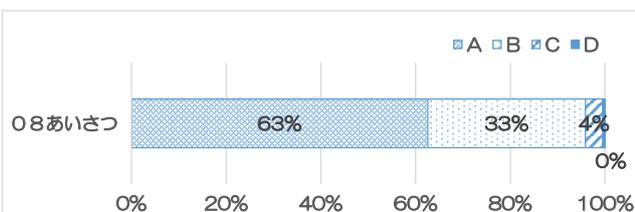
4 やさしさと思いやりの心の醸成

学校の状況	自己評価 A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
互いの良さに気づき、自分を大切にしながら他を思いやる心を持ち続けようとしている。	前期 概ね良好	良好	保護者から高い評価を受けている。「なの花カード」などの継続した取組により成果を高めている。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】</p> <p>あいさつ運動は、毎月1日をあいさつ運動の日として、学年毎に交代で校門前に立ち実施した。またあいさつ強調週間を設定。カードを使用し意識付けを図り、あいさつの活性化に力を入れて取り組んだ。今回あいさつカードには、家庭からの欄を設け、家庭でもあいさつを意識してもらうようにした。また、あいさつ運動の前後には、学級で話し合いをしてあいさつの振り返りをし、課題と成果を出し合うようにした。2学期のあいさつ強調週間につなげていきたい。</p> <p>ハートアップタイムは、縦割り班の顔合わせ会や清掃などで異学年交流をした。上級生が下級生のお世話をしあえる姿も見られる。2学期もハートアップを実施予定である。今後もコロナの状況を見ていながら、異学年交流を進めていきたい。</p> <p>なの花カードは、友達の思いやりやがんばりの姿を広める取組の一つで、カードに書いて廊下に掲示している。また昼の放送では、全員の友達からのメッセージを紹介し、児童もうれしそうである。互いを認め合いよさを広げることのきっかけとなっているので、今後は他の学年へも視点が広がるように、活動を継続していきたい。</p> <p>後期はさらに児童の発想を生かした特別活動・児童会活動となるよう、活動例を紹介しながら、児童の話し合いを中心にして教師側からも活動を支えていきたい。</p>		

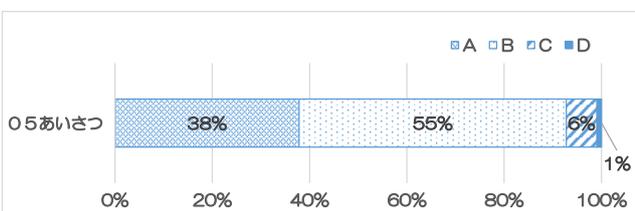
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価 B	
			前期	後期
5 思いやりとやさしさの心をもつ子	(6) 主体的な特別活動・児童会活動	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体となつてのあいさつ運動 児童の発意・発想を生かした児童会、委員会活動 自他のよさを認め合う「なの花カード」 縦割り班清掃への取組を中心とした異学年交流 	3	

[5-(6)]に関するデータ

(児童アンケート) あいさつをよくしていますか。



(保護者アンケート) 子どもたちが元気にあいさつをし、安心して過ごすことができるよう取り組んでいる。



◎取組の実際

(1) あいさつ運動の推進

- ① 毎月のあいさつ運動 (学年)
- ② あいさつ強調週間の実施
あいさつカード、あいさつの話し合い、上学年によるあいさつの呼びかけ
- ③ 一中生との合同あいさつ運動 (8月)
- ④ 運営委員会主催のあいさつ川柳の募集

(2) ハートアップタイム

円滑な人間関係作り、自他を思いやる心をねらいとした交流を実施

- ① スタート集会での異学年交流
- ② 縦割り班清掃

(3) なの花カード

友達のよさを紹介するカードを廊下に掲示し、校内放送で紹介 (全員)

(4) その他

- ① 児童の意見を生かす城西サミット会議
- ② 児童の発想を生かす児童会、委員会活動

なの花カード

あいさつ運動



あいさつ強調週間(パート1) 6月12日(月)~16日(金)

あいさつカード

年 組 名 前

気持ちのよいあいさつをしよう
~いつでも どこでも だれとでも~

自分からあいさつをする
相手からあいさつを受ける
あいさつをする時、笑顔で話しかける
あいさつをする時、相手の目を見て話す
あいさつをする時、相手の名前を呼ぶ

自分からあいさつをする時、相手の名前を呼ぶ
相手からあいさつを受ける時、相手の名前を呼ぶ
あいさつをする時、相手の名前を呼ぶ
あいさつをする時、相手の名前を呼ぶ

自分からあいさつをする時、相手の名前を呼ぶ
相手からあいさつを受ける時、相手の名前を呼ぶ
あいさつをする時、相手の名前を呼ぶ
あいさつをする時、相手の名前を呼ぶ

5 安全・安心				
学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
児童の校内外における安全確保につとめ、諸問題に組織的に対応している。	前期	概ね良好	良好	児童、保護者ともに評価が高く、安全安心な学校づくりに尽力している様子がよく伝わってくる。今後も継続した取組をお願いしたい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】安全の意識化を図る取組として、校内では、2ヶ月に1回程度、「城西っ子の一日チェック表」を活用して、子どもが自分自身を見つめ振り返ることで、安全意識を高めるようにしている。</p> <p>また、校外では、おたより「城西っ子の暮らし」や終業式後に、長期休業の暮らしについて安全指導を行い、未然防止に努めている。必要に応じて全校放送や全校集会でも交通安全等について注意を呼びかけてきた。各学級では「城西っ子の暮らし」を読み合わせたり、集会での話題を確認したりするなど丁寧に指導を行ってきた。また、言葉の遣い方によるトラブルやインターネット等のトラブルの未然防止をねらいとする「言葉の遣い方・情報モラル教室」を、5・6年生対象に、長期休業前に実施してきた。</p> <p>教職員間で生徒指導に関する情報共有を図るために、毎週水曜日の職員打合せ後に「児童理解」を行っている。適時に児童や学級の様子を知ること、児童理解を深め、児童への指導に生かすことができている。組織としても、学校全体で子どもたちの見守りができている。また、生徒指導力向上のための内容についても「生徒指導部報」を活用して情報提供したり、「ミニ生徒指導研修会」を行ったりして、教職員の意識を向上を図り、事故やトラブルの未然防止及び迅速な対応に努めている。</p> <p>今後も、児童を取り巻くあらゆる危険に対応できるように、職員間や保護者との情報共有を図り、連携していきたい。特に、校内では安全な廊下歩行、校外では、不審者への対応を含めた継続的な登下校の安全指導を行い、保護者へ子どもたちの安全について関心をもってもらうよう、機会を捉えて呼びかけていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
6 組織的な生徒指導	(7) 諸問題への迅速で適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に必要な安全教育の実施(事件事故の未然防止) ・安全確保のための地域力の活用(オレンジ隊等) ・緊急連絡に伴うメール連絡網の整備 ・情報の共有化と、学校体制での迅速な対応 	3	

◎取組の実際

- (1) 交通安全教室の実施
- (2) 朝の登校指導(月初め・学期の初めを中心に)
学校・保護者・地域：民生児童委員
- (3) ガードボランティア・オレンジ隊の活動
 - ①毎週木曜日1年生と下校
 - ②町内連絡会への参加と集団下校
- (4) いじめ未然防止の指導(1人1人に目を向けた学級経営)
 - ①いじめアンケート調査の実施(学期に1回)
 - ②教育相談の実施(全児童)
- (5) 言葉の遣い方・情報モラル教室の実施
長期休業前、5・6年生対象
- (6) 安全の意識化を図る生徒指導通信、児童・家庭向け「城西っ子の暮らし」の発行

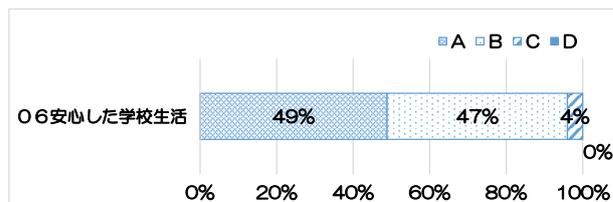
- (7) 校内外の安全の意識化を図る「城西っ子の一日チェック表」の活用
 - (8) 毎週水曜日打合せ後の「児童理解」ミニ生徒指導研修会の実施
 - ・教職員間で情報共有を図り、指導力向上が目的
 - (9) 全校集会や終業式後、昼の放送による安全指導
 - ・大型連休、夏季休業前、適時に実施
 - (10) 緊急メールの活用
 - (11) 「子ども110番の家」への協力依頼・適時訪問
 - ・7月(長期休業中に全ての教職員の協力で行う)
- [6に関するデータ]
(保護者アンケート)「安心して学校生活を送ることができている」



大館警察署の方からも安全指導をしていただいた交通安全教室



町内連絡会後には、オレンジ隊のみなさんと集団下校



☆十分達成できていると達成できている合わせて96%と高い評価。

重点D 健康と体力の向上

6 健康的な生活習慣づくり			
児童生徒の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
健康への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	概ね良好	早起きやメディアコントロールに関する家庭への働きかけや、清掃活動についての取組を今後も充実させていただきたい。
	年度		
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】</p> <p>生活習慣チェックは養護教諭を中心に定期的に家庭の協力を得て実施している。生活習慣のデータを見ると、「早起き」は全体的に8割の達成率で良好だが、「早寝」は下学年において達成率が低かった。また、「ゲーム・動画視聴」は、全校の達成率が昨年度よりも低く、特に高学年の達成率は低い。そのため、9月のメディアコントロール週間では、委員会活動での呼びかけなど、児童が主体的に取り組んでいけるよう工夫した。清掃指導では、「班長会議」を開き、清掃の内容の確認や困っていることなどについて定期的に確認した。また、班長による班の良いところ紹介の放送や職員によるカードを使った称揚によって、全校の清掃に対する意欲を高めている。給食指導は、毎月の「めあて」を教室に掲示することで、児童の意識付けを図っている。</p> <p>今後は、生活習慣の課題を学級での指導に生かすとともに、2回目の実施（1月）と比較しながら保健だよりで各家庭へ情報発信し、啓発を一層図っていく予定である。また、学校保健委員会で確認した健康課題の改善に向けたよりよい生活習慣の施策を探っていきたい。清掃指導では、継続して班長会議を開き、6年生のリーダーシップの向上を図るとともに、児童の清掃意識を高める取組を工夫し、校内の環境衛生の維持を図っていききたい。給食指導は、今年度も後期には給食センターから栄養教諭を招いて、各学年に合った「食」の指導を予定している。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 健康で明るい生活ができる子	(8) 基本的な生活習慣・食習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣チェックの実施と情報発信 学校保健委員会との連携 	4	
	(9) 自立に向けた生活指導の確立	<ul style="list-style-type: none"> 清掃指導（縦割り班活動の充実、掃除方法の徹底） 給食指導（準備や片付け、マナーの徹底、栄養指導を通じた食育の推進） 	3	

〔7に関するデータ〕

～生活習慣チェックの実施について～

◎取組の実際

1 委員会を中心とした活動

- 健康委員会が「姿勢アンケート」の結果をもとに正しい姿勢について集会を実施
- 生活習慣チェック実施の呼びかけ
- メディアコントロールの呼びかけ
- 給食の時間の食や栄養に関する放送

2 清掃指導

- 清掃方法のビデオ説明
- 班長会議での清掃指導
- 大掃除期間の「毎日のお掃除名人」の選出
- 放送でのよいところ紹介

3 給食指導

- 月ごとの「給食のめあて」の学級掲示を活用したマナーの意識向上

4 その他

- 養護教諭による歯みがき指導と夏休み歯みがきカレンダーとカラーテスターの協力依頼
- 食物アレルギー児童についての全職員による情報共有
- エピペン講習の実施

<早ね>

◎4、5、6年生は昨年度より高くなった。

▲他の項目が80%以上なのに比べて、全校の達成率が低い。（早ね：76.0%）

▲1年生は例年に比べて低い。（R5：65.7%、R4：78.7%、R3：89.2%）

1～3年：9時まで就寝 4～6年：10時まで就寝

学年	R5 (5月)	R4 (4.5月)	R3 (3月)
1年	65.7	71.6	78.7
2年	68.5	74.7	80.0
3年	82.9	82.0	84.1
4年	80.3	76.0	76.7
5年	82.8	78.0	86.1
6年	82.2	80.5	77.3
全校	62.2	74.3	83.8

ゲーム・DVD・動画視聴を含め1時間まで

学年	R5 (5月)	R4 (4.5月)
1年	82.8	78.0
2年	86.1	82.2
3年	80.5	77.3
4年	74.3	83.8
5年	64.4	50.0
6年	70.5	77.3
全校	77.3	70.5

<ゲーム・動画視聴>

◎3年生は昨年度より高くなった。

▲他の項目が80%以上なのに比べて、全校の達成率が低い。（メディア：70.5%）

▲2、4、5、6年生が昨年度より10ポイント前後低くなった。

▲6年生は他の学年に比べて低い。

～健康診断の結果から～

◎健康歯者の割合が大館市平均より高い。（R5本校：68.8% R4大館市62.3%）

▲視力0.7未満（裸眼・矯正）の割合は、高いまま推移している。（R4:35.9% R5：35.4%）

姿勢についての集会の様子

7 体力の向上				
児童生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
運動に関心を持ち、自らの体力の向上に取り組んでいる。	前期	良好	良好	効果的な施策によく取り組んでる。体力向上に向けた取組を今後もお願いしたい。
	年度			
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】 業間運動として春から秋まで太陽の時間にマラソントimeを設けている。カードに秋田県、日本、アメリカの地図を印刷し、グラウンドの周回数に応じて色を塗ることで意欲的に取り組むことができている。また、マラソン記録会でタイムを測り、マラソン運動実施前と比較することで、自分の成長を実感できるようにしている。新体力テストでは、前年度の秋田県の平均や自分の去年の記録をもとに今年目標を決めることによって、意欲的に取り組むことができた。 今後は、2回目のマラソン記録会、なわとび運動などの業間運動が予定されている。児童委員会の活用や、がんばった児童を称揚する取組を工夫して、さらに進んで体力づくりに取り組む児童を育成していきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
8 進んで運動できる子	(10)体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や新体力テストを意識した業間運動 ・新体力テストの実施 ・テスト結果を基に補強を意識した体力づくり 	4	

◎取組の実際

1 運動会や新体力テストを意識した業間運動

- (1) 全校によるマラソントime
 - ・太陽の時間に実施
 - ・体育委員会が主体となって実施
- (2) マラソンカードの活用
 - ・目標周の設定と明記
 - ・秋田県、日本地図の活用
- (3) マラソン記録会の実施→記録向上を賞賛
 - ・春と秋の2回の実施計画

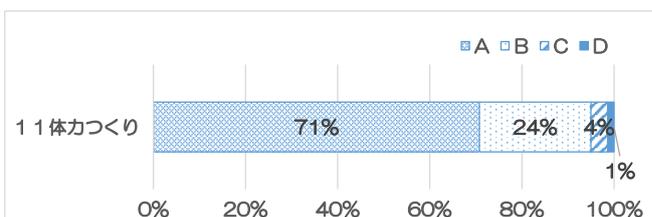
2 新体力テストの実施、補強を意識した体力づくり

- (1) 体力テストの目標値の設定
→数値の可視化
- (2) 実施に向けての体力作り
 - ・学年や学級による事前の練習
 - ・体育の授業による継続的な指導
- (3) 新体力テストの実施
 - ・上学年のリーダーシップ（兄弟学年の活用）
 - ・各種目の目標値の掲示→個人の目標設定に生かす

[8に関するデータ]

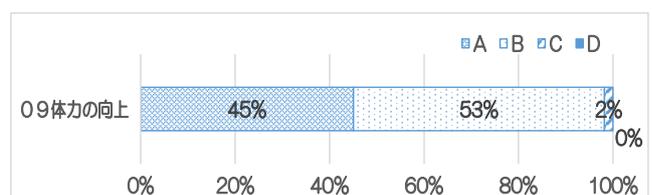
<児童アンケート>

マラソン運動などで体力づくりをがんばっていますか。



<保護者アンケート>

学校は子どもたちの体力を高めるための取組をしている。



マラソン記録会（6年）



新体力テスト

重点E ふるさとキャリア教育

8 ふるさとキャリア教育

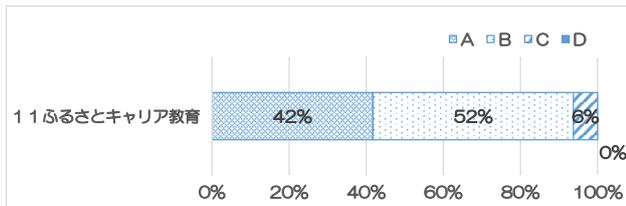
児童生徒の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
地域のためにできることを考え、取り組んでいる。	前期 良好	良好	地域と連携した活動や地域のためにやっている活動が非常に充実している。今後も継続をお願いしたい。
	年度		
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】ふれあい緑の活動では、参加者を学年に割り振り一緒に作業をしていただくことによって、例年以上に児童と地域の方々との交流の場を増やすことができた。草取りだけでなく、学校生活に関する会話が弾み、実の孫のように接して下さる方が多かったことも、大変有り難かった。SC活動では、5・6年生と地域の方が一緒に話し合っ、地域のためにできることを計画する場を設定した。地域の方と一緒に考えることで、より地域のニーズに合った活動が設定され、充実感が増すだろうと思われる。（町内ごとのSC活動は9月28日に実施予定。）</p> <p>今年度は、ふるさとキャリア教育の年間指導計画を練り直し、テーマも「みんなで作ろう、ぼくらのふるさと」とした。4月の第1回弥栄集会では、運営委員会を中心に、昨年度の各学年の取組を紹介したり、SC活動の意義を説明したりして、全校で共通理解を図ることができた。9月の神明社祭典に先立ち、第2回弥栄集会（兼夢授業）を実施し、大館囃子保存会の方々を招いてお囃子体験をしたり、踊りやかけ声の体験をしたりした。これにより、全校で地域の伝統文化に親しむことができた。また、今年度は、第一中学校区共通の取組として、神明社祭典当日を「ふるさと学習」として、地域で学ぶ日とした。様々な形で地域の行事に触れることにより、地域と関わりながら進んで行動しようとする児童の思いが高まったと思われる。</p> <p>今後は、地域への思いをより一層大事にしながら、地域のことを詳しく調べたり、地域のためにできることを考え、発信したりする機会や場の設定にさらに努めたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 できることを考え実践できる子ども	(11) SC活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい緑の活動 ・町内SC活動 ・子どもハローワークの奨励 ・キャリアノート・パスポートの活用・推進 	4	
	(12) 弥栄プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・弥栄集会への取組 ・地域学習 ・夢授業 	4	

〔9に関するデータ〕

〈保護者アンケート〉

（学校は）ふるさとキャリア教育を進めている。



（3）弥栄プロジェクト

① 弥栄集会への取り組み

ふるさと学習に関わる活動の紹介。弥栄集会での掛け声・お囃子・踊りの体験。

② 地域学習

- 1年生…学校と周辺のまち探検
- 2年生…地域の企業や団体を訪ねるまち探検
- 3年生…秋田杉と地域の産業に関わる学習
- 4年生…地域の福祉に関わる学習
- 5年生…大館囃子の演奏 稲作学習
- 6年生…大館市・函館市についての調べ学習
城西小の歴史についての調べ学習

◎取組の実際

（1）SC活動の推進

① 町内ごとに地域の方と一緒に取り組む活動を計画し実施

（2）夢を育む取組

① 夢授業の計画（9月実施・11月実施予定）
児童の夢を育むために、様々な分野で活躍されている方々や地元高校生をお招きし、交流する「夢授業」を計画。

② 子どもハローワーク

全校へ案内を随時配付・取りまとめ。
延べ107名の申し込み。

③ キャリアノート・パスポートの活用・推進。



弥栄集会



ふれあい緑の活動